

別添様式 【課仕様】

## 平成21年度 農政水産部水産課 組織目標の評価

、xの記号により表示

達成度は、  
:目標以上の実績  
:ほぼ目標どりの実績  
:目標値に達しなかった  
x:未実施

目 標	平成21年度の目標値	評価	達成率(%)	達成度	今後の対応
水ヨシ帯の回復	ヨシ帯 1.6ヘクタールを造成します。 (草津市北山田地先)	平成19年度に調査設計を実施した草津市北山田工区において、平成21年度は1.6ヘクタールのヨシ帯造成を行いました。平成21年度末で、累計24.2ヘクタールの造成となりました。	100%		平成23年度までに26.5ヘクタールのヨシ帯を造成することを目標としており、平成21年度までに24.2ヘクタールの造成を完了しました。平成22年度は守山市赤野井工区で1.0ヘクタールの造成を計画しており、目標達成に向けて、着実に実施していきます。
県特産ふなずしの原料となる琵琶湖産フナの漁獲量の回復	ニゴロブナ種苗を琵琶湖へ放流します。 全長20mm種苗 800万尾 全長120mm種苗 120万尾	全長20mm種苗を1,155万尾(水田活用1,033万尾、池中養成122万尾)、全長120mm種苗を120万尾、琵琶湖へ放流しました。 また、平成18年度に策定した資源回復計画に基づき、漁業者が自主的に資源を管理しながら漁獲する資源管理型漁業の推進に取り組みました。	144%		水田を活用して生産した全長20mm種苗800万尾と、沖合で生息できる全長120mm種苗120万尾のニゴロブナ種苗を琵琶湖へ放流します。 また、平成18年度に策定した資源回復計画に基づき、漁業者が自主的に資源を管理しながら漁獲する資源管理型漁業の推進に取り組みます。
ホンモロコの漁獲量の回復	ホンモロコ種苗を琵琶湖へ放流します。 ふ化仔魚 1億尾 13~20mm種苗 350万尾	親魚の養成、採卵、放流などの各技術を検討しながら、ふ化仔魚1.12億尾を琵琶湖北湖へ放流しました。また、13mm種苗255万尾と20mm種苗100万尾を琵琶湖南湖に放流しました。	100%		ふ化仔魚および13~20mm種苗の放流効果を検証しつつ、さらに親魚の養成、採卵、放流技術などを改良しながら、ふ化仔魚1億尾と稚魚種苗350万尾の放流を実施します。
アユの漁獲量の安定維持	アユ種苗(ふ化仔魚)20億尾を人工河川から琵琶湖へ流下させます。	養成した親魚8トン(安曇川人工河川)へ放流し、産卵させました。 また、産卵盛期に天然河川の濁水状態が続いたため、天然親魚11.7トン(姉川)を捕獲し、姉川および安曇川人工河川に放流し産卵させました。その結果、両人工河川から計46.83億尾のふ化仔魚を琵琶湖に流下させることができました。 さらに、天然親魚1トン(近隣河川)を捕獲し、近隣河川に放流し、産卵・ふ化させるモデル事業を実施しました。	234%		平成22年度は、安曇川人工河川に養成親魚8トン(安曇川)を放流し、産卵、ふ化させ、ふ化仔魚を琵琶湖に流下させます。 合わせて、瀬切れで遡上できない天然親魚4トン(姉川)を捕獲し、姉川人工河川や近隣河川に放流する事業を実施します。 2つの事業により、合計24億尾のふ化仔魚を琵琶湖に流下させます。
セタシジミの漁獲量の回復	覆砂により砂地 5ヘクタールを造成します。	南湖においてセタシジミの生息場所となる砂地を平成19年度から覆砂によって造成しています。平成20年度までに9.5ヘクタール、平成21年度は4ヘクタール造成しました。 さらに、近接地120ヘクタールにおいて湖底耕耘により湖底を改善(H18より実施)するとともに、セタシジミ種苗10.1億個を放流した。 また、平成17年度に策定した資源回復計画に基づき、漁業者が自主的に資源を管理しながら漁獲する資源管理型漁業の推進に取り組みました。	90%		平成29年度までに64ヘクタールの覆砂による砂地造成を目標に、平成22年度は11ヘクタールの覆砂を引き続き南湖(草津市地先)で実施します。 合わせて近接地で120ヘクタールの湖底耕耘を実施するとともにセタシジミ種苗10億個を放流し、セタシジミ漁場の早期再生を図ります。 また、平成17年度に策定した資源回復計画に基づき、資源管理型漁業の推進に取り組みます。
外来魚の生息量の削減	平成21年度末外来魚の生息量1,200トン	外来魚を358トン駆除するとともに、増加傾向にある外来魚稚魚の繁殖抑制のため、オオクチバス稚魚タモ網すくい、小型ビームトロール網と外来魚沖びき網による稚魚捕獲を実施しました。	-	平成21年度末生息量はH22年冬頃に推定値が出る予定。	外来魚の生息実態に応じた手法を取り入れながら、駆除や繁殖阻止を強力に進めていきます。 平成21年度計画 駆除促進対策(主に成魚対象):350トン駆除 繁殖抑制対策(主に稚魚等対象):オオクチバス稚魚タモ網すくい1000万尾 緊急雇用対策を活用した外来魚産卵環境攪乱事業、密集水域での効率的な駆除事業

目 標	平成21年度の目標値	評価	達成率(%)	達成度	今後の対応
カワウ個体数の低減	カワウ個体数の低減	水産課事業で竹生島や伊崎半島の営巣地を中心に14,453羽のカワウを駆除しました。琵琶湖環境部と合わせた県全体の駆除数は19,641羽となり、秋のカワウ生息数は平成16年度以降初めて3万羽を下回る29,968羽となりました。	-		平成22年度も琵琶湖環境部と連携し、営巣地を中心に2万羽を目標に駆除を実施します。